

## 第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：1219

講演題目：中庸熱ポルトランドセメント- $\text{CaO} \cdot 2\text{Al}_2\text{O}_3$ -膨張材系の炭酸化反応と空隙構造の変化

誤	正
1 ページ目 右段 上から 3 行目 コンクリートの促進中性化試験方法に	コンクリートの促進中性化試験方法

以 上

## 第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：1303

講演題目：コンクリート細孔の表面電荷がイオンの拡散浸透に及ぼす効果

誤	正
<p>2 ページ目 右段 上から 11 行目</p> <p>に示す。帯電体の対イオンは拡散には寄与しないが</p>	<p>に示す。帯電体の対イオンは拡散による溶液濃度の増加には寄与しないが</p>

以 上

## 第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：1304

講演題目：温度と相対湿度が異なる亜硝酸リチウム圧入量の RC 構造鉄筋腐食に及ぼす影響に関する研究

誤	正
1 ページ目 左段 上から 22 行目 8. 2	8.2
1 ページ目 左段 上から 25 行目 温度が 20	温度が 20℃
1 ページ目 左段 下から 3 行目 2. 1 測定項目	2. 2 測定項目
1 ページ目 右段 上から 3 行目 ASTM <sup>2)</sup> の規格	ASTM の規格 <sup>2)</sup>
1 ページ目 右段 下から 4 行目 図・4 に異なる温度環境に暴露した供試体の質量変化を示す。温度 10 および 20 の供試体は、圧入量 に関係なく質量が増加し、その後質量変化がほぼ一定になった。また、温度 30 の供試体は、圧入量に	図・4 に異なる温度環境に暴露した供試体の質量変化を示す。温度 10℃ および 20℃ の供試体は、圧入量 に関係なく質量が増加し、その後質量変化がほぼ一定になった。また、温度 30℃ の供試体は、圧入量に

以 上

## 第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：1314

講演題目：粒度調整した砕砂の物性値・粒子形状・微粒分がモルタルの流動性に与える影響

誤	正
<p>1 ページ目 上から 4 行目</p> <p>北九州市立大学 国際環境工学研究科 環境工学専攻</p>	<p>北九州市立大学 大学院 国際環境工学研究科 環境工学専攻</p>
<p>1 ページ目 左段 上から 18 行目</p> <p>もにお産業廃棄物として処理される際に多くのエネルギーを費やすと考えられる。</p>	<p>もに産業廃棄物として処理される際に多くのエネルギーを費やすと考えられる。</p>

以 上

第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：1319

講演題目：相互作用力に基づいた立体障害モデルによる楕形高分子の吸着層厚の推定

誤	正
2 ページ目 左段 上から 3 段落目の 3 行目 $150 \sim 50 \times 10^{-21} \text{J}$	$150 \sim 50 \times 10^{-21} \text{J}$

以 上

第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：2201

講演題目：亜硝酸リチウム混和モルタルの CO<sub>2</sub> 侵入による組成変化

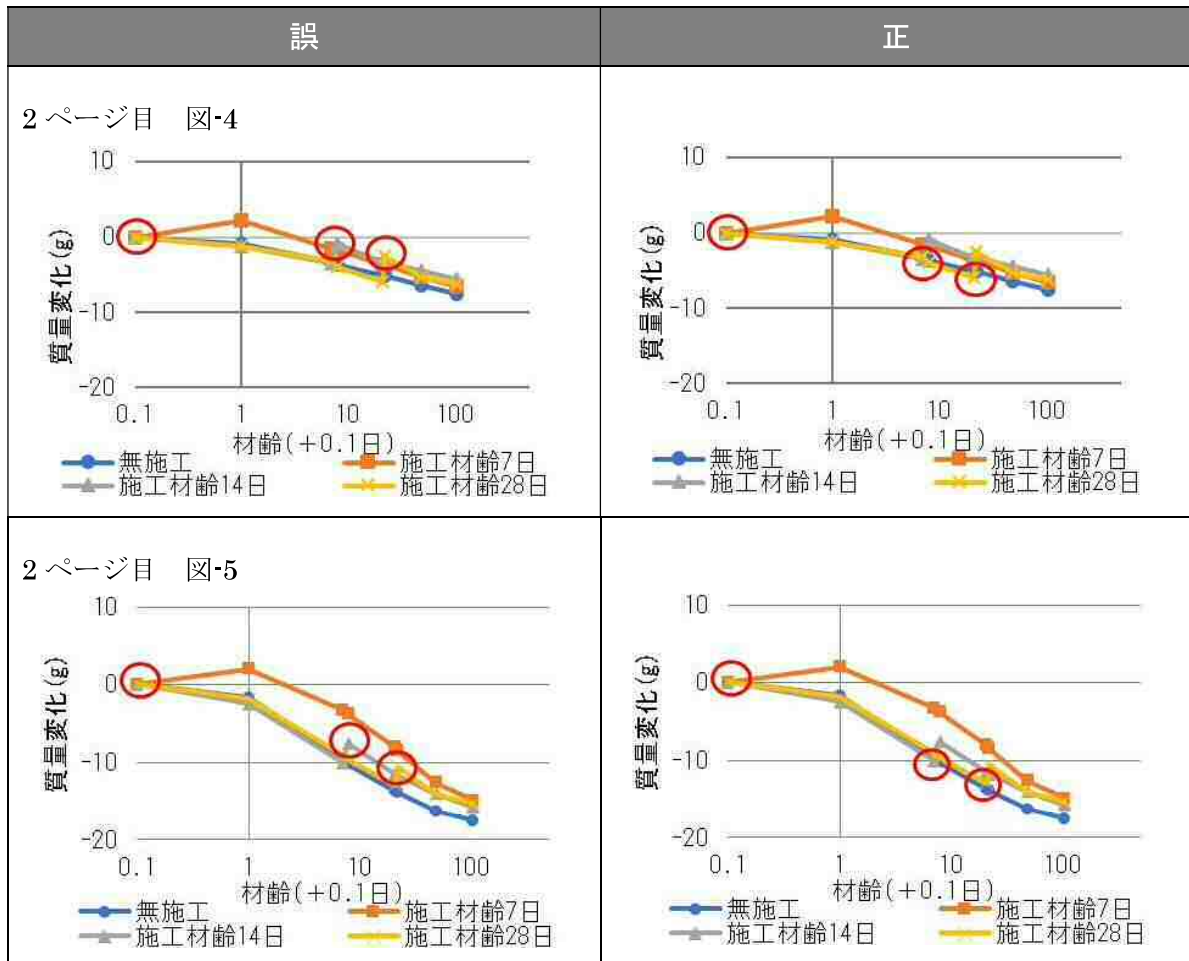
誤	正
1 ページ目 左段 下から 10 行目 298.000±0.002g	198.000±0.002g

以 上

第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：2203

講演題目：シラン系表面含浸材の施工材齢および水セメント比がモルタル性能に与える影響



以上

第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：2310

講演題目：セメント系安定処理砂の力学特性ーベンダーエレメント試験による初期せん断弾性係数の評価ー

誤	正																												
<p>1 ページ目 左段 上から 6 行目</p> <p>... ヤング率 <math>E</math> を算出することができる。</p>	<p>... ヤング係数 <math>E</math> を算出することができる。</p>																												
<p>1 ページ目 左段 表 1</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>固化材添加量 C (kg/m<sup>3</sup>)</th> <th>水・固化材 質量比 W/C (%)</th> <th>ベントナイト・固化材 質量比 B/C (%)</th> <th>材齢 (日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50</td> <td>80</td> <td rowspan="3">3</td> <td>6569</td> </tr> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td>6138～7390</td> </tr> <tr> <td>160</td> <td>150</td> <td>6785～6807</td> </tr> </tbody> </table>	固化材添加量 C (kg/m <sup>3</sup> )	水・固化材 質量比 W/C (%)	ベントナイト・固化材 質量比 B/C (%)	材齢 (日)	50	80	3	6569	100	100	6138～7390	160	150	6785～6807	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>固化材添加量 C (kg/m<sup>3</sup>)</th> <th>水・固化材 質量比 W/C (%)</th> <th>ベントナイト・固化材 質量比 B/C (%)</th> <th>材齢 (日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50</td> <td>80</td> <td rowspan="3">3</td> <td>6569</td> </tr> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td>6138～7390</td> </tr> <tr> <td>160</td> <td>100</td> <td>6785～6807</td> </tr> </tbody> </table>	固化材添加量 C (kg/m <sup>3</sup> )	水・固化材 質量比 W/C (%)	ベントナイト・固化材 質量比 B/C (%)	材齢 (日)	50	80	3	6569	100	100	6138～7390	160	100	6785～6807
固化材添加量 C (kg/m <sup>3</sup> )	水・固化材 質量比 W/C (%)	ベントナイト・固化材 質量比 B/C (%)	材齢 (日)																										
50	80	3	6569																										
100	100		6138～7390																										
160	150		6785～6807																										
固化材添加量 C (kg/m <sup>3</sup> )	水・固化材 質量比 W/C (%)	ベントナイト・固化材 質量比 B/C (%)	材齢 (日)																										
50	80	3	6569																										
100	100		6138～7390																										
160	100		6785～6807																										

以 上



## 第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3104

講演題目：改質フライアッシュの早期交通開放型コンクリート舗装への適用性に関する検討

誤	正
<p>2 ページ目 左段 上から 17 行目</p> <p>▽曲げ強度は、いずれの配合も材齢 1 日で養生終了可能な曲げ強度 <math>3.5\text{N/mm}^2</math> 以上となり、所要の早期交通開放性を有していることを確認した。</p>	<p>曲げ強度は、いずれの配合も材齢 1 日で養生終了可能な曲げ強度 <math>3.5\text{N/mm}^2</math> 以上となり、所要の早期交通開放性を有していることを確認した。</p>
<p>2 ページ目 右段 下から 13 行目</p> <p>今後も、供用にもなる路面性状の変化を継続して調査する予定である。</p>	<p>今後も、供用にもなう路面性状の変化を継続して調査する予定である。</p>

以 上

第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3107

講演題目：コンクリートの導電率を用いた初期材齢における圧縮強度の推定手法の提案

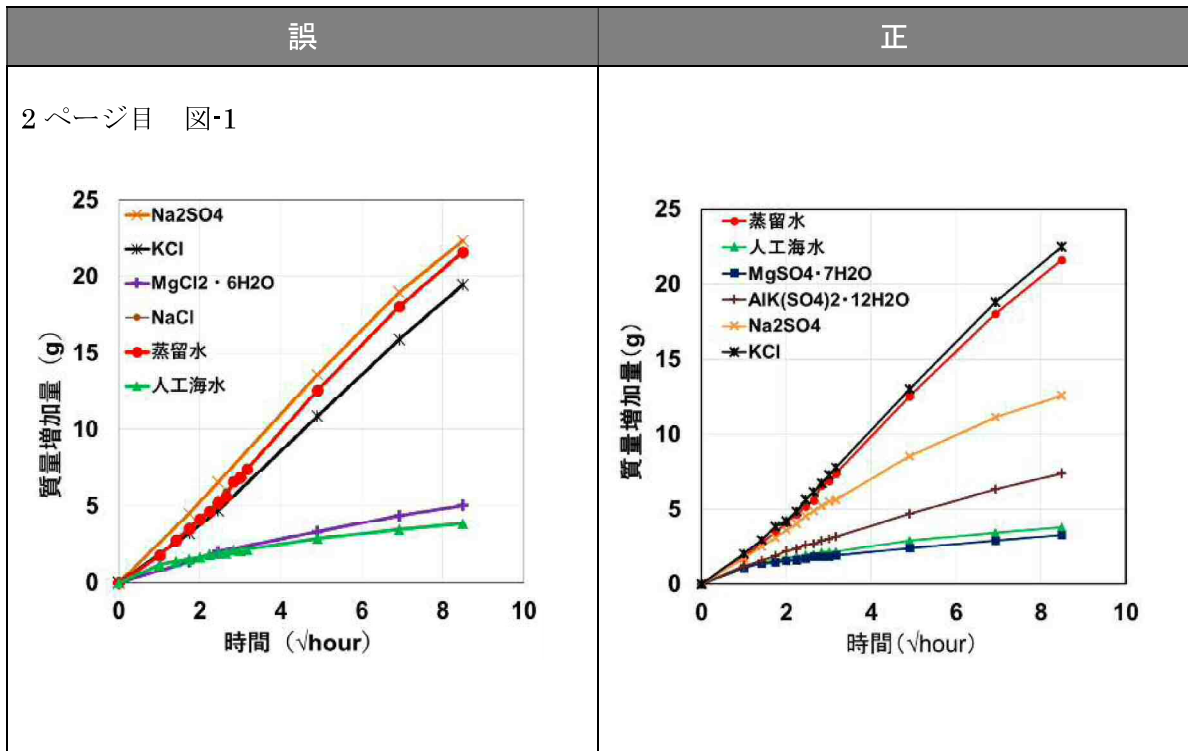
誤	正
<p>2 ページ目 図 5</p> <p>■ BB-5°C ▲ BB-20°C ○ BB-35°C</p> <p>圧縮強度(N/mm<sup>2</sup>)</p> <p>導電率(mS/cm)</p> <p><math>y = 11.33\ln(x) + 4.42</math> <math>R^2 = 0.97</math></p>	<p>■ BB-5°C ▲ BB-20°C ○ BB-35°C</p> <p>圧縮強度(N/mm<sup>2</sup>)</p> <p>導電率(mS/cm)</p> <p><math>y = 48.78 e^{(2.99)x}</math> <math>R^2 = 0.79</math></p>

以上

第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3113

講演題目：水和イオン半径および生成物の形成がモルタル中の水分浸透抑制に与える影響

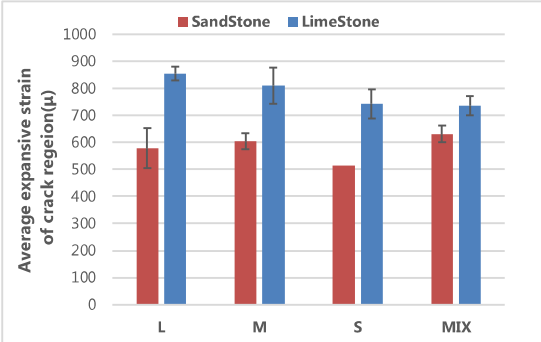
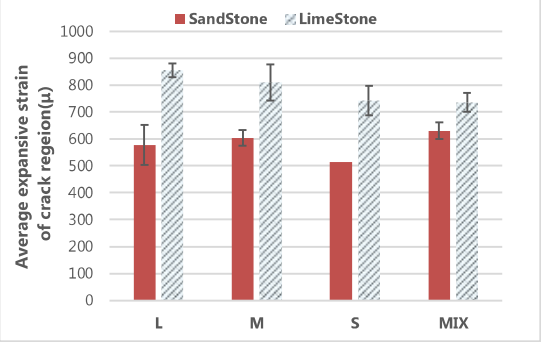
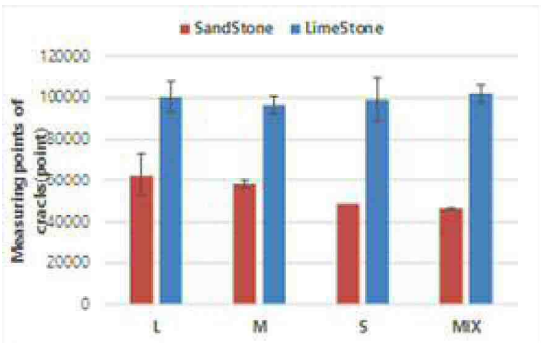
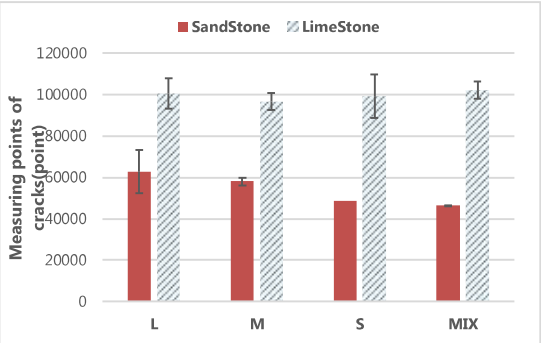


以上

第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3114

講演題目：Influence of aggregate types on shrinkage-induced microcracks

誤	正																														
<p>2 ページ目 Fig.2</p>  <table border="1"> <caption>Data for Fig.2 (Incorrect)</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>SandStone (μ)</th> <th>LimeStone (μ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>L</td> <td>~580</td> <td>~850</td> </tr> <tr> <td>M</td> <td>~600</td> <td>~800</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>~520</td> <td>~750</td> </tr> <tr> <td>MIX</td> <td>~630</td> <td>~730</td> </tr> </tbody> </table>	Category	SandStone (μ)	LimeStone (μ)	L	~580	~850	M	~600	~800	S	~520	~750	MIX	~630	~730	 <table border="1"> <caption>Data for Fig.2 (Correct)</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>SandStone (μ)</th> <th>LimeStone (μ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>L</td> <td>~580</td> <td>~850</td> </tr> <tr> <td>M</td> <td>~600</td> <td>~800</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>~520</td> <td>~750</td> </tr> <tr> <td>MIX</td> <td>~630</td> <td>~730</td> </tr> </tbody> </table>	Category	SandStone (μ)	LimeStone (μ)	L	~580	~850	M	~600	~800	S	~520	~750	MIX	~630	~730
Category	SandStone (μ)	LimeStone (μ)																													
L	~580	~850																													
M	~600	~800																													
S	~520	~750																													
MIX	~630	~730																													
Category	SandStone (μ)	LimeStone (μ)																													
L	~580	~850																													
M	~600	~800																													
S	~520	~750																													
MIX	~630	~730																													
<p>2 ページ目 Fig.3</p>  <table border="1"> <caption>Data for Fig.3 (Incorrect)</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>SandStone (point)</th> <th>LimeStone (point)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>L</td> <td>~50000</td> <td>~100000</td> </tr> <tr> <td>M</td> <td>~50000</td> <td>~95000</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>~45000</td> <td>~95000</td> </tr> <tr> <td>MIX</td> <td>~45000</td> <td>~100000</td> </tr> </tbody> </table>	Category	SandStone (point)	LimeStone (point)	L	~50000	~100000	M	~50000	~95000	S	~45000	~95000	MIX	~45000	~100000	 <table border="1"> <caption>Data for Fig.3 (Correct)</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>SandStone (point)</th> <th>LimeStone (point)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>L</td> <td>~50000</td> <td>~100000</td> </tr> <tr> <td>M</td> <td>~50000</td> <td>~95000</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>~45000</td> <td>~95000</td> </tr> <tr> <td>MIX</td> <td>~45000</td> <td>~100000</td> </tr> </tbody> </table>	Category	SandStone (point)	LimeStone (point)	L	~50000	~100000	M	~50000	~95000	S	~45000	~95000	MIX	~45000	~100000
Category	SandStone (point)	LimeStone (point)																													
L	~50000	~100000																													
M	~50000	~95000																													
S	~45000	~95000																													
MIX	~45000	~100000																													
Category	SandStone (point)	LimeStone (point)																													
L	~50000	~100000																													
M	~50000	~95000																													
S	~45000	~95000																													
MIX	~45000	~100000																													
<p>題目</p> <p>Influence of aggregate types on shrinkage-induced microcracks</p>	<p>Influence of aggregate types on shrinkage-induced microcracks</p>																														

以上

## 第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3205

講演題目：フライアッシュによる DEF 抑制効果に関する検討

誤	正
<p>1 ページ目 左段 上から 5 行目</p> <p>DEF の抑制対策として、養生初期に高温履歴を受けないのが望ましいが、生産の.....</p>	<p>DEF の抑制対策として、<u>養生初期の高温状態を避ける方法があるが</u>、生産の.....</p>

以 上

## 第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3207

講演題目：中規模供試体を対象としたコンクリートの表層透気係数の経年変化

誤	正
1 ページ目 左段 下から 10 行目 高炉セメント B 種を用いた。	高炉セメント B 種 (BB) を用いた。

以 上

第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3213

講演題目：低温下における降温と昇温の繰り返しがモルタルのソルトスケーリング抵抗性に及ぼす影響

誤	正
<p>1 ページ目 右段 上から 13 行目</p> <p>「6%では、最低温度が-10℃以下においてはスケーリングが起こっていない。全ての濃度で、最低温度が-40~-10℃の場合、最高温度が-20~-3℃の範囲でスケーリングが起こる。特に、3%ではスケーリングが大きい。また、<u>スケーリングが生じる温度条件において最低温度と最高温度との温度差が大きくなるほどスケーリングが大きくなる。</u>」</p>	<p>「6%では、最低温度が-10℃以上においてはスケーリングが起こっていない。全ての濃度で、最低温度が-40~-15℃の場合、最高温度が-20~-3℃の範囲でスケーリングが起こる。特に、3%ではスケーリングが大きい。また、<u>最低温度が-20 と-15℃において、最低温度と最高温度との温度差が大きくなるほどスケーリングが大きくなる。</u>」</p>

以 上

## 第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3302

講演題目：火山ガラス微粉末を用いた活性度指数試験の練混ぜ時間と粉体の分散に関する研究

誤	正
1 ページ目 左段 上から 17、18 行目 2 ページ目 左段 下から 11 行目  粗粉	粗粉

以 上



## 第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3305

講演題目：早強ポルトランドセメントに高炉スラグ微粉末を混和したコンクリートの塩化物イオン浸透性

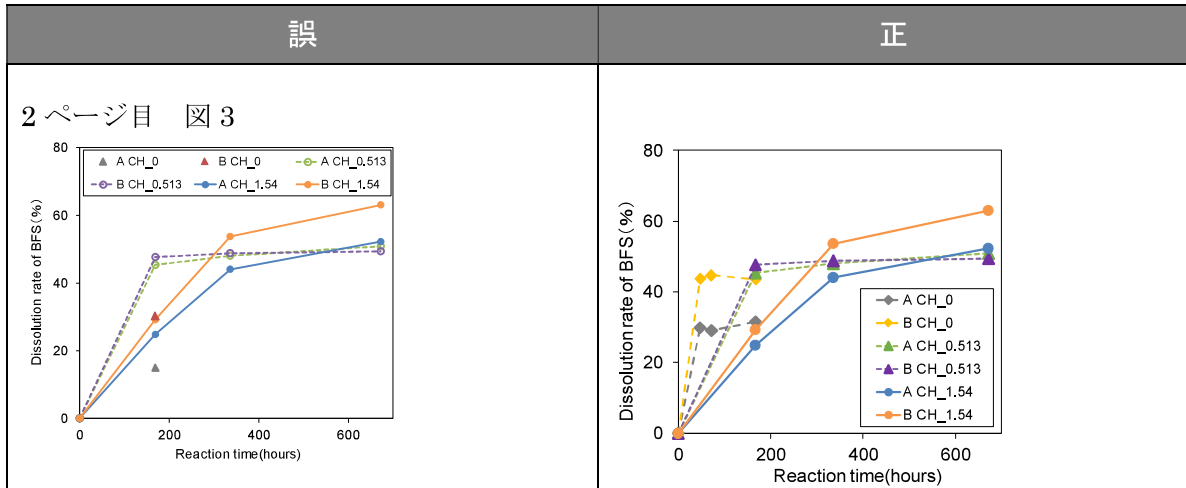
誤	正
<p>1 ページ目 左段 下から 13 行目</p> <p>なお、打設後は、水温 20□で、所定の材齢まで水中養生を行った。</p>	<p>なお、打設後は、水温 20℃で、所定の材齢まで水中養生を行った。</p>
<p>2 ページ目 左段 下から 14 行目</p> <p>普通セメントと早強セメントへの置換における実効拡散係数と見かけの拡散係数の関係性は、異なる結果となった。</p>	<p>普通セメントと早強セメントへの置換における見かけの拡散係数と実効拡散係数の関係性は、異なる結果となった。</p>

以 上

第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3309

講演題目：高炉スラグ細骨材の反応性に関する基礎的研究



以上

## 第 72 回セメント技術大会 講演要旨正誤表

講演番号：3318

講演題目：少量混合成分を増量したセメントの水和に及ぼす分散剤少量添加の影響

誤	正
<p>1 ページ目 右段 下から 10 行目</p> <p>いずれも 328 [J/g]であり、OPC100%系より約 9%小さい。</p>	<p>いずれも 328 [J/g]であり、OPC100%系より約 8%小さい。</p>
<p>2 ページ目 左段 下から 10 行目</p> <p>FA10%と LSP10 % では約 9%減少した。</p>	<p>FA10%と LSP10 % では約 8%減少した。</p>

以 上